

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和6年度第2回会議
日 時	令和6年12月26日(木) 午前10時～12時
場 所	前橋市議会庁舎2階 研修室
出 席 者	<p>【委員：11名】 石川委員、稲田委員、大森委員、坂柳委員、清水委員、田中委員、橋本委員、眞庭委員、森下委員 リモート参加：山形委員、横田委員</p> <p>【前橋市】 小川市長、細谷副市長、吉川教育長、阿佐美未来創造部長、宇次政策推進課長、林政策推進係長、政策推進係員</p>
<p>発言内容 阿佐美未来創造部長</p> <p>小川市長</p> <p>阿佐美未来創造部長</p>	<p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和6年度第2回会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会を務めます、前橋市未来創造部長の阿佐美と申します。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、はじめに、県都まえばし創生本部・本部長の小川市長からごあいさつを申し上げます。</p> <p>改めまして、こんにちは。年末の押し迫った時期にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。第2回の有識者会議という事で、夏に行った第1回の時にも委員の皆さんからいい意見をいただきまして、厳しい意見もありましたが、私たちとしては非常にありがたいなと思っておりますし、これをもとにさらに良い計画を作っていけたらと思っております。</p> <p>本日は、そういった皆さんからいただいた意見を踏まえてですね、最上位計画である総合計画の改訂版や人口ビジョンについて議論いただく予定になっております。引き続き、それぞれの視点から意見をいただきまして、一緒にこれからの前橋のことを考えていけたらと思いますので、限られた時間ですけれども、どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>また、本日は副本部長である細谷副市長、吉川教育長にもご出席いただいておりますが、時間の都合上、ご紹介のみとさせていただきます。</p> <p>続きまして、市側の出席者についてですが、自己紹介については省略させていただきますが、冒頭ごあいさつを申し上げました小川市長以下、名簿に記載のとおり計10名となっておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。 資料は、次第下部に記載のとおりとなっております。</p>

必要に応じてお手元でご確認いただきながら、ご協議をお願いいたします。

資料一覧

(1) 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿

(2) 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱

(3) (資料1) 第七次前橋市総合計画第3期推進計画の改訂について

(4) (資料2) 第七次前橋市総合計画第3期推進計画(素案)

(5) (資料2-1) 第3期推進計画重点事業_改訂のポイント一覧

(6) (資料3) 第3期県都まえばし創生プラン(人口ビジョン)改訂について

(7) (資料4) 第3期県都まえばし創生プラン(人口ビジョン)改定素案

(8) (資料5) 新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジ田)計画変更について

もし、不足のものがありましたら、挙手をいただければ、すぐにお持ちさせていただきますのでどうぞよろしくをお願いいたします。

なお、本日の会議は山形委員、横田委員がオンラインの参加となります。

また、前田委員、江口委員、矢端委員については、欠席となっておりますので、ご了承ください。

それでは、次第の「3議事」に移ります。

ここからの進行は、設置要綱第5条第2項により、共愛学園前橋国際大学の
大森委員さんに座長をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただき、議事進行をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

大森委員

みなさま、こんにちは。座長を務めさせていただきます大森でございます。

先程、市長からも年末という話がありましたが、年末だからこそ集まれたというところもあるかと思っておりますので、ご了承いただきながら、よろしく願います。また、オンラインでご参加いただいている山形委員さん、横田委員さんもぜひ遠慮なくご発言いただければと思います。

今日は3期計画の改訂についてということで非常に重要な案件でございます。十分にご説明をいただいて、意見交換、ご質問等を受けていきたいと思っておりますが、いつもこの会議では事前に意見を出していただいておりますが、今回はここで色々揉んでもらった後に、また委員さんから意見を出してもらえようようなスキームを用意してもらっておりますので、今日は内容を理解していただきながら、もちろんご質問もしていただければと思います。

また、人口ビジョンについても議案となっております。これも非常に深刻な問題となっておりますので、総合計画で近い未来のことを考えながら、遠いこともたち、孫たちの時代についてもご一緒に考えていければと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の会議は、概ね2時間を目安に進めていこうと思っておりますが、資料も多々ありますので、説明もしっかりしていただきます。みなさま進行にご協力いただければと思います。

また、この会議は公開となっておりますので、傍聴、撮影につきましては許可

	<p>することといたしますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、「議事（１） 第七次前橋市総合計画第３期推進計画の改訂について」進めていきます。</p> <p>冒頭事務局から説明をしていただいたあと、ご意見、ご質問等いただきたいと思ひます。</p> <p>それでは、事務局からよろしく願いいたします。</p>
<p>林政策推進係長 猪熊政策推進係員</p>	<p>【（資料１）「第七次前橋市総合計画第３期推進計画の改訂について」に基づき説明】</p>
<p>大森委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは今説明がありました内容について、ご質問、ご意見をいただければと思ひます。どなたからでも結構ですのでよろしく願いします。</p> <p>はい、石川委員さんお願いいたします。</p>
<p>石川委員</p>	<p>群馬大学の石川です。</p> <p>最初に質問ですが、資料２の 13 頁に前橋市と他の市町村の産業構造のデータ、産業別売上金額 2021 年とありますが、これは非常に重要なデータだと思ひますが、前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、それぞれの売上額の総額についてはどれくらい差があったのでしょうか。医療・福祉分野が突出していると思ひますが、産業構造としては特徴でなくて課題になるのではないのでしょうか。他の分野での収入がないということにならないのでしょうか。</p>
<p>林政策推進係長</p>	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>金額については、経過までは記載はありませんが、14 頁にパーセンテージの元になります売上金額が記載されておりまして、前橋市でいいますと 3 兆 9 6 0 9 億円ほどになっております。</p>
<p>石川委員</p>	<p>人口あたりにすると分かりませんが、明らかに高崎より少ないわけではなから。医療・福祉の売上が良いからいいのではなく、他の産業に回っていないということ、産業構造の課題になっているのではないのでしょうか。ここを解消していくことで人口対策にもなっていくと思ひます。</p>
<p>大森委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>医療・福祉が突出しているということは、実は他の産業が課題ではないかというご意見でした。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>森下委員お願いいたします。</p>

森下委員	<p>日本政策金融公庫前橋支店長の森下です。</p> <p>行政サイドは色々なファクトを押さえてマルチなご検討をされていると感じていたところです。ひとつ質問なのですが、重点施策第4章の3魅力ある農林業への転換ということで、重点事業名が3つあって、24番の農業基盤の安定支援は赤字なので変更されたというご説明でしたが、重点施策に農林業と謳っているのに林業の事業がないことに違和感を感じました。国家レベルでも森林環境譲与税で林業について支援していこうということになっています。重点事業24の名称を変更するのであれば、農業基盤に絞るのではなく、むしろ経営基盤の安定支援として、林業の方も前橋市として支援していただくこと検討していただいても良いのではないかと思います。</p>
林政策推進係長	<p>ありがとうございます。</p> <p>林業については、事務局として検討できていない点でした。あまり前橋市の林業が盛んとは言えない状況ですが、力を入れていかないといけない部分だと思いますので担当部署と意見交換させていただきたいと思います。</p>
小川市長	<p>ここの項目の中で林業として頭出しはできていないのですが、ただ昨年、今年と環境森林譲与税の林業メニューも具体的なものも増えてきておりますので、赤城山を抱えている前橋市としてどう活用できるか、しっかり検討していきたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。林業推進していった方が良いということですね。</p>
森下委員	<p>森林環境贈与税を上手く活用している自治体があります。素材生産になりますが、面白い事例はいくつかあるので、農業よりは経営体数少ないですが、大きな金額でなくてもかなり効果は出ると思いますので、ぜひご検討いただければと思います。</p>
小川市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>また事例も教えていただきたいと思います。</p> <p>若手職員がこれからの前橋市を考えるウェルビーイング研修でも、素材生産の提案がありました。これから検討していきたいと思います。</p>
大森委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>稲田委員お願いします。</p>
稲田委員	<p>前橋商工会議所の稲田です。</p> <p>ロジックモデルで最終成果を見据えた検討ということで、確かに私も過去にこういった仕事に携わったこともあるので、そういった視点も必要だと感心していたところです。</p> <p>その中で子育てを中心に進めていくということで、個別計画にも子育て政策の推進という部分をあります。最終成果のその先には前橋で大切に育てた子ども達が前橋に残って前橋の企業に就職してくれて企業の人手不足が解消すると</p>

<p>林政策推進係 長</p>	<p>いった、もっと遠い将来の目標も見据えておく必要があるのではないかと思います。</p> <p>ご意見、ありがとうございます。</p> <p>本冊の 81 頁、30 番若者の定着・還流促進となっておりますが、見直し前は若者の定着促進という重点名称でした。これは今いる若者の方が外に出ていかないように、もしくは若者が入ってきてもらえるようなテーマの重点事業でしたが、ここに還流という言葉を追加させていただきました。というのも稲田委員さんが仰るとおり、遠い将来に向けて、今前橋にいらなくて外に出てしまっても前橋に戻ってきてくれるような施策を重点的にやっていかなくてはならないと考えているところです。</p>
<p>小川市長</p>	<p>そこは、とても大事なところだと思っています。やはり若い世代が東京をはじめ都市部に流失してしまっているということは、どの地方も大きな課題だと思いますが、これから地方創生を進めていくうえで、前橋も将来働く場所として、若い人達にも選んでもらえるかどうかというところは、ポイントになってくると思います。今日は産業界・経済界のみなさんもそうですし、学校関係者の方々にもご出席していただいておりますが、産学官連携でどうやっていくか、めぶくプラットフォームの関係もありますので、また商工会議所、学校関係者と意見交換していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</p>
<p>大森委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>おそらく定着・還流というテーマとすると、すべての施策が関係してくると思います。たぶんそこがロジックモデルでも経過として最上位の目標にしていきたいと思います。産業政策もまちづくりも子育て、教育もそうですし、そこが一つキーワードになると思っていますので、とても大事なことだと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>眞庭委員お願いします。</p>
<p>眞庭委員</p>	<p>前橋都市計画審議会の眞庭です。</p> <p>重点 36 はある程度まとまった場所に人に住んでいただいて、コンパクトな都市運営を目指すということですが、土地利用規制や区画整理・市街地整備だけでは人を集めるのは難しいのかなと思います。</p> <p>そうしたなかで 84～85 ページにあるまちなかの魅力向上などのソフト面でも事業を実施することで人が集まっていく。この 2 つを一つの重点施策にしてほしいということではありませんが、相互補完的な形で結論を確認できるような体系だといいいのかなと感じました。</p>
<p>大森委員</p>	<p>とても大事な意見だと思います。</p> <p>市の事業を 1 つ 1 つ上げていくことはいいのですが、施策の関係図のような、バラバラに考えるのではなくお互いに関係する政策で総合的に見えた方がいいかもしれません。</p>

<p>坂柳委員</p>	<p>ただ、そうするとおそらくすべてが繋がることになると思いますけれども。市民から見ると古い指標は縦割りに見えますが、前橋市の取組はそうではない取組をずっとされているので見せ方を工夫できるといういかもしれませんか。他にいかがでしょうか。坂柳委員お願いします。</p> <p>社会福祉法人すてっぷの坂柳です。第3章についてです。重点施策名称が包括ケアから共生社会になったのはよかったですと思います。以前の名称だとケアする側とされる側に分かれてしまうような捉え方もできましたが、共生社会という名称がお互いにどの人も主体性を持った認識ができると思います。ただ、65 ページの障害者の活躍促進の成果指標で、当事者がどう感じるかという点が指標におけるといいと思いました。せっかく新しく採用したウェルビーイング指標からそういうところが入れられないでしょうか。</p>
<p>大森委員</p>	<p>ありがとうございます。坂柳委員の意見に対してコメントと、ウェルビーイング指標について簡単に、どういう観点で設定しているのか説明をお願いします。</p>
<p>林政策推進係長</p>	<p>質問ありがとうございました。こういう言い方も失礼かもしれませんが、当事者の方々がどういう気持ちでいるのか図る素敵な数値があれば教えてほしいなとちょっと思いました。成果指標の設定は、言うのは簡単ですが実際に取れる数字かどうかもあるので、意外と難しい部分があります。どんな数字があるのか、もしなにかご存知のものがあれば教えていただきたいです。</p>
<p>坂柳委員</p>	<p>関連データの中に、市民アンケートの結果がありますが、障害者の方もアンケートの対応できますので、そうしたことで本人の意見を聞いていただけるとありがたいと思います。暮らしやすさは意識だなと思うので、その辺も吸い上げていただけるといいと思います。</p>
<p>林政策推進係長</p>	<p>参考にさせていただきます。市民アンケートは無作為抽出なので中には当事者の方も回答者にいたかもしれません。ウェルビーイングの件については、今回 15 の指標を置かせていただきましたが、政策推進課としてはもう少し多く設定を検討しておりました。担当課との調整が整わず、結果的に今の数となっております。全国調査の指標のため、信頼性は高いと思います。</p>
<p>小川市長</p>	<p>ウェルビーイング指標はデジタル庁が取っているデータで関連するものは取り入れて参考にしていくという意味で書いているんだと思います。坂柳委員のいうとおり障害政策や共生というところだと LGBT や外国人も含</p>

猪熊政策推進係員	<p>まれていくと思いますが、当事者の顔が見えない計画ではいけないなと思います。こういった指標だと実際の充実感が高まってくるのかというところが、計画に入れるのかは別に相談させてもらえるといいなと思います。</p> <p>言い訳になるかもしれませんが、産業部門では今年産業ビジョンを策定していて、より深い産業構造のデータやアンケート結果を確認しています。障害福祉分野でも来年度新しく計画を作るところで、当事者の方たちの考えをキャッチしていると思います。総合計画と分野別計画で補完関係にもあると思いますので、しっかり実態を把握して施策が進められるよう障害福祉課と連携していきたいと改めて思いました。ありがとうございました。</p>
宇次政策推進課長	<p>ウェルビーイングの関係は、本冊 20 ページにウェルビーイング指標の説明を記載しておりますので、そちらもご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
大森委員	<p>総合計画を考えるときは、先程話しがあった施策同士の関係性も大事ですし、個別計画で取っているデータなども大事かと思います。本当は、すでに取り替えているデータを一覧とかあるといいと思いますね。総合計画のために、指標を設定するために、すでに個別計画で取っている数字を別に取り替える必要もないと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。 橋本委員をお願いします。</p>
橋本委員	<p>一般社団法人 前橋まちなかエージェンシーの橋本です。</p> <p>まずはじめに、本冊のデザインですが、色も文字も多く頭の中がパニックしちゃうかもしれないので、色を整理してもいいかもしれません。</p> <p>本題ですけれども、稼げる場所にならないと産業の誘致とかは難しいと思いますので、売上を一つ目標にしてもいいかなと思います。</p> <p>85 ページまちなかで豊かな時を過ごせる状態を目指すとありますが、文化振興もそうですが、時間がないと楽しめないものかなと思います。これだけ忙しい時代でいかに時間を生み出すか、やることが多い中でどうやって時間を作るかという中で、デジタル技術や DX 化ということが必要になってくると思います。今回見直しの視点に生産性の向上、効率性の向上というのがありますが、4 章 5 章全体で DX 化などの記載が見られないのはなぜなのかなと思いました。市役所の中でも職員が減るけど業務は増えていくというところで、DX 化というのは目標に据えなければいけないかなと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。</p>
林政策推進係長	<p>ちょっと痛いところを突かれたというのが正直なところですが、わたしたちもデジタルの関係の記載がないというのは承知しておりました。</p> <p>言い訳のようになってしまいますが、今回は第七次総合計画のマイナーチェンジというところで、大きな改訂は第八次で行うものというイメージを持って</p>

<p>小川市長</p>	<p>います。デジタルの要素は第八次で目指していくものかなと思っています。市長いかがでしょうか。</p> <p>前橋市は、それこそウェルビーイング指標の客観データ・主観データをみても、デジタル生活の指標も高いですし、これまで全国を引っ張っていくようなデジタル化の取組を進めていると思います。現状動いているものもどうやって市民に還元していくか、これからもやっていくというところです。ただ、基本的にDXは目的ではなく、デジタル化は手段なので、すべての政策に絡んでやっていかなければ行けないので、個人的にはその段階に持っていきたいと思っています。言わなくてもすべての政策に入っている、生産性向上も効率化も同様にそういう状態に持っていきたいと思っていますが、猪熊さんどうですか。</p>
<p>猪熊政策推進係員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>聞いていてそのとおりだなと思いました。</p> <p>昨年度改訂をした総合戦略では、デジタルは手段として施策全体を下支えして、いま掲げる取組を推進していくという整理もしていますので、今回もそういった整理が馴染むかなと思います。目標として行政DXを進めますという重点事業を掲げるのは違うかなと思いますので、全体にかけてメッセージが出せる整理をしたいと思います。</p> <p>あと、本冊のデザインについて、色味が多いのはそのとおりだと思います。今後は業務委託も予定しているので、次ご覧いただくときには見やすいものになるよう心がけたいです。</p>
<p>小川市長</p>	<p>橋本さんのいうとおり、文字だけみると抜けちゃったんだな、やらないんだなというふうに誤解を与えかねないので、しっかり進めていくという見せ方をお願いします。</p>
<p>大森委員</p>	<p>そういうところからいくと、例えば政策方針のところの政策基盤のような一文が入るといいですね。素敵な木のデザインの中に方策としてのデジタルが木全体を支える、もしかしたら土壌かもしれないですかね。とはいえ書けばいいというものではないですけどね。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>田中委員お願いします。</p>
<p>田中委員</p>	<p>前橋の私立認定こども園協会の田中です。よろしくお願いします。</p> <p>この中で私は第2章、前橋市はこども子育て真ん中というところで、市長がお話され、注目が沢山あつまってしまった分野なのかなと。人口も少なくなっていて、こども子育てを色々行う中で、こども誰でも通園や医療的ケアなど、メニューが少しずつ増えてきまして、我々も保育士だけではできない分野も出てきています。当然ながら障害を持っているこどももいれば、給食、栄養士さん、調理師さん、色々な分野の方に中に入っていて、成り立っている状況です。この分野では妊娠期から、生まれる前、これから子育てだということをや</p>

つとここ最近言われています。その中でも働く保育士だったり、そういうところにも注目をしていただきたいというところでもあります。子育てを充実するために、どうしたらいいのかというところで、色々な場面でアンケートを取りますが、その際、来た人に良いとか悪いとかのアンケートではなくて、なぜここを知ったのか、なぜここがわかったのか、どうやってここを見つけたのかという、そういうところが大事になってくるのではないかなど、先日の会議の中で色々と話が出ましたので、支援についてはそこが重要ではないかというところではあります。今後はここをなんで知ったのか、お友達だったのか、市のホームページなのか、何で知ったのかというところで、そこを知ることによって、もっと広がってくるのではないかと思います。利用がしやすくなったりだとか、こちら側からどんどんアピールしても、そこに辿り着く人がいなければなかなか利用ができないところもあるので、利用している人にそれを聞いていく必要があると思います。コミュニティ、地域の子育てに関して何に困っているとか、だれに相談したら良いとか、そういうところで保育園は窓口どんどん広げて子育て支援、タウンミーティングでもたくさん、我々の団体、保育の団体でタウンミーティングもさせていただいて、子育てについて間口を広げて、頑張っていこうというところではあります。やはり子育てについて末端のところなので、保育園とか、幼稚園・こども園に聞けば解決するよというところの窓口を広げていくためにも、市との連携がやはり大事になってくると思います。子育て支援という事業の名前だけでなく、中身の方も一緒に考えていければ良いのかなというところではありますので、ぜひ両立だったり色々な所で、今保育園こども園72園ぐらいある団体の長とも会議をしながら、どうやって進めて行くかというお話もさせていただいているところです。行政と一緒に進められれば、少しずつ色々な事業とか促進、子育て支援ができるかと思っています。

大森委員

ご意見ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

清水委員お願いします。

清水委員

看護協会の清水と申します。少しずれる話かもしれませんがご容赦ください。私は小児医療にずっと携わってきており、こども達を育てるということで職員を見ていると、病児が発生すると預けられず突然お休みされます。前橋市は比較的病児を見てもらえるところがありますが、それでも子どもを預けられなくて、その日お休みしてしまう人が増えてしまうので、病児を見てもらえる環境を増やしてほしいです。また障害者のところでは、内部疾患のこども達が成長し就労していくなかで、特別支援学校は、最初の1年目は校長先生などが見回りに行っていたことでもうまくやっていますが、内部疾患は見えないので、病気のことを知らない方たちが多いので、周りの人からいじめにあっているケースがずいぶんあり就労継続できない状況があります。能力的に問題はなく、体力的に厳しいところがあるので、そういうところをうまくしていただくと、いろいろな方が働き続けていけるのではないかと思います。また体は動けないんだけど知的には問題ないというこどもたちもたくさんいます。そういう

	<p>子はなかなか学校に行くことが難しいです。特別支援学校の先生方が工夫してくださっていて、昔より断然良くなってきていますが、地域にリタイアした先生方がたくさんいらっしゃると思います。そういう人たちをうまくプールして活用していただいて、きめ細かい子ども達に対しての教育をしていただくことで、生産年齢人口にうまく合致できます。別件ですが、看護大学生が卒業するうちの40%しか県内に残らないという現状があります。ほかに魅力を感じてしまい、もう少し県や前橋市は物価が安いということも魅力の一つと考えますので、給料や最低賃金が低いことがクローズアップされるのですが、住みやすさというところをもっとアピールして頂けると、もっと大学生や社会人、残っていただけるのではないかと考えています。アピールの仕方がすごくもったいないなとも感じているので、そういうところを考えていただけたらと思っています。以上です。</p>
吉川教育長	<p>人口減少社会の中で、いろいろな分野と人材の取り合いになっているなということを感じております。教育現場もそうですし、運輸や建設なども、非常に人口減少に悩んでいるところかと思えます。その中でやはり教育現場で培って来られた知識経験というのが活かせる、活かしたいと思っている先生方は多いので、今後人材バンクなども活用を充実させていきたいとは考えておりますので、連携を取らせていただきたいなと思えます。</p>
小川市長	<p>魅力のPRについては本当に私ももったいないなと思っているので、どうやったらこれを伝えられるのかというのは、少し市役所のなかでも広報は力を入れていきたいなと思っています。</p>
大森委員	<p>ありがとうございました。 オンライン参加の山形委員いかがでしょうか。</p>
山形委員	<p>途中ネットワークの関係で聞き取れなかった部分もあるのですが、今回の計画改定の内容を見させていただいた中で、気になったのは子育て支援の部分になります。本来僕であればデジタルの分野を話したほうがいいんでしょうけども、内容としては子育て支援の分野気になるなと思って見ていまして、今これは前橋市さんだけでなく、他の地域を見ても、子育て支援はやっぱり親御さんの支援をたくさん書かれている市町村さんがすごく多いなと思っています。その中で、なにかと言いますと、親のキャリアプランというか、親御さんのライフステージに沿った形での支援、そういう視点がすごく多いなと思いました。今、学校教育の現場とかに顔を出して保護者の方のお話聞いていると、自分の子どもがどうなってほしいというモチベーションのほうが強いなって、やはり自身の経済とかって言うよりは、自分の子どもがこうあってほしいという、観点がとても強いんですけど、子育て支援でいうと、どうしても親御さんのキャリアプランのほうに行ってしまうケースが多いと思います。本来、子ども本人に対してのアプローチの部分が、子育て支援の分野にこそ必要なんじゃないかなとちょっと考えている所があります。どうしても子どものことになってくると、若者の定着だとかそういう方に視点がいきがちかなと思うんですけど、子育て</p>

	<p>支援にこそ、なんらかの、親御さんの行動変容に繋がるような、きっかけというか施策が一個あるとちょっと面白いんじゃないかなと感じるところです。以上です。</p>
大森委員	<p>新たではないのでしょうか、改めての視点をいただいたかなと思っています。山形委員さん、今の親御さんの行動変容に繋がるっていうのは、お子さんの未来っていうことを考えていく、だけじゃなくて、というニュアンスでしょうか。</p>
山形委員	<p>具体的にと言われると、結論というか、こういうのがいいんじゃないかというところまではまだまだない状況なんですけれど、金銭面とか、そういう部分じゃなくて、自身のこどものキャリアを考えたときに、という視点というか、ちょっと見せ方とか見え方が変わるなにかがあると良いんじゃないかなと、いまおぼろげに感じているところです。</p>
大森委員	<p>私もそれはなんとなく感じていて、そして親の世代の目指している Well-Being とか幸せ感と、実はこども達がこれから生きていく時代の幸せ感はずっともうズレが来ていて、だけれども親が子にこうなってほしいとか、そういった事も含めてですね、今、例えば教育長はじめ頑張っている学校の中での学びの変化みたいなことが、でも、今もう 20 代 30 代の親はそうじゃないかもしれないけど、ちょっと教科学力さえ上げればいいみたいな世代の人からすると、今の学びってちょっと違う方向に行っているわけだけれども、その辺が合致していくとかなりいいなと思ったりしています。</p>
小川市長	<p>親の目線からの子育てとか、教育とか、こどもにこうなってほしい、というのは今までもすごくたくさん私達は大人として考えてきたと思うんですけど、やっぱり今こども基本法もできて、今前橋市もこども計画とか、こどもの権利条例も作ろうと動いている中で、実際にこどもたちの意見を聞いて、小学生でも中学生でも高校生、大学生に意見を聞くと全然やっぱり大人が思っていることと違ったりギャップがあったりして、もっと主体的に自分たちでやりたいこともあるし、意見も持っているし、なんかそのいろんなこどもだから、というのではなくて、こどもに関わる場所こそ、こどもの意見も取り入れて、まちづくりにしても学校づくりにしてもいろんな政策をしていく必要があるんじゃないかなと思っています。今回はこどものアンケートも今取ってもらっていますが、こういったこどもの視点というのもしっかり取り入れながら、こどもがいきいきしていれば、おそらく親はそれで満足してくれるのかなっていうのも何となくあるので、その繋がりっていうのは少し意識をしてやっていけたらなと思っています。どうもありがとうございます。</p>
吉川教育長	<p>ありがとうございます。コロナ禍を経て私達学校の関係者も、体験することの大切さを改めて感じました。認知能力とともに非認知能力をいかに高めていくか、というところで体験をするということがとても大事だと思っています。自分で考えて判断して行動する人になる、ということがこれからの社会に求め</p>

	<p>られる人間かと思うんですけども、この体験をする場というのは、前橋いっぱい作れるのではないかなというふうに考えております。農業もありますし、アートもあります。アートっていうのは多面的にいろんなものの見方を育てることができますので、前橋が持っているそういう資源を活用した教育っていうのもっともっとアピールできるのかなというふうに思っております。社会教育については大森先生も大変専門家でいらっしゃいますので。</p> <p>ありがとうございます。まだまだというところはあるかもしれませんが、また意見を事務局に届けることができる機会、機会というか流れ、やり方を作っただけということなので、今日はかなり理解が深まったところで、もう一回読み直していただいて、これもあれもというような遠慮なく出していただければというふうに思います。次の議題もあるものですから、ちょっと次に移らせていただければと思います。</p> <p>それでは、議事の2、3ということになりますが、議事（2）第3期県都まえばし創生プラン人口ビジョンの改定について、議事（3）新しい地方経済・生活環境創生交付金に係る事業計画について、一括して事務局から説明していただければと思います。</p>
<p>大森委員</p>	<p>【(資料3)「第3期県都まえばし創生プラン(人口ビジョン)改定について」に基づき説明】</p> <p>【(資料5)「新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジ田)計画変更について」に基づき説明】</p>
<p>飯塚政策推進係員</p>	<p>【(資料3)「第3期県都まえばし創生プラン(人口ビジョン)改定について」に基づき説明】</p> <p>【(資料5)「新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジ田)計画変更について」に基づき説明】</p>
<p>大森委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは事務局からの説明に対して、何かご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>石川委員お願いします。</p>
<p>石川委員</p>	<p>最初に事務局にお伺いしたいのは、他市事例をどのように参考にしたかという点です。今すぐに説明を求めるものではないですが、少しできていない点かと思えます。</p> <p>9月に宇都宮市で開かれた学会に参加したのですが、都市計画を大々的に改革をして現在、全国的に移住政策を宣伝しています。市内の交通機関についても革新的なものになりましたし、周辺の工業団地も含め相当気合いを入れて進めているので、それらを見ていると、今回の人口ビジョンの改定をみても残念ながら全体像が少しボケてしまっていると感じます。何をアピールして前橋市が住みやすい、どのような将来を目指しているかということが宇都宮市と比べると端的に見えないです。一番は交通政策で、私自身も30年くらい前橋市に住んでいます、非常に良いところがある都市だけれどもネックは交通だと思います。動きにくいということです。高齢化すると特に顕著です。子育て中の方にとっても同様であると思えます。それらが結果的に転出超過とか、子育て中</p>

	<p>の方に影響があると思います。</p> <p>転入の部分もそうでした、外国人の意見について色々取り入れていただくことは良いですが、外国人にとっては、実際に住んでみてどのように生活できるのかという利便性がわからないと、移住とか定住に結びつきにくい。宇都宮市と同様に移住計画を前橋市でも作られていると思いますが、その中でも見えてこない。転入を超過させていくという非常に重要なところについては、全体の都市計画、交通計画であったり、働く場所を提供するために産業構造を見直して、改めて市としてどういう産業部門に重きをおくかという検討をする必要があると思います。その中でも医療器機、ロジスティクスとか、製造業の中でも回りがやっていないもの、例えば電力であるとか。また栃木と比較すると群馬県はスマート農業に対する対応が全くできていない現状なので、就農者にとっては非常に大きな足かせになると思います。若手の中には ICT 活用等に長けている方もいるけれども、できるだけ農業を効率化して行くことが必要なので、県へ働きかけるなどしながら市として進めていくべきだと思います。</p>
林政策推進係長	<p>少し説明が不足していたかもしれませんが、今回の改定の中身は「人口ビジョン」の部分になります。石川委員のおっしゃっていただいた部分は「総合戦略」の視点かと思いますが、昨年度こちらについては、有識者会議でご議論いただいて人口減少対策などについて改訂を済ませています。</p> <p>その中で今ご意見いただいた内容について落とし込んでいけるように検討するのがベターかと考えています。</p> <p>今回、あくまで人口推計の話が中心になります。もちろんいただいたご意見は貴重なものでありますので、今後参考にさせていただきます。</p>
大森委員	<p>2060年の人口を26万人に留めるんだという覚悟を決めるなら相当頑張らないといけませんね。現実はずっと減少してしまうと思いますよね。社人研の推計値はなぜか今回は遅れる形になりましたが、傾向としてはどんどんネガティブになってしまうもので、推計が出る度に少子化が進んで行く傾向があるので数年後はまた厳しいものになるかもしれません。</p>
大森委員	<p>資料5の説明は直近であった国の補正予算に関わるものではないという理解であっていますか。</p>
飯塚政策推進係員	<p>R6年度にデジタル田園都市国家構想交付金として実施している事業になります。交付金の名称が新しいものになるのでこの名称で手続きをしますが、既存の実施事業にかかるものです。</p>
大森委員	<p>補正予算がかなり増額されて募集が始まったようですがいかがですか。</p>
飯塚政策推進係員	<p>県と連携した事業を検討しています。</p>
大森委員	<p>他にありますか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。</p>

	<p>これで全ての議事を終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
阿佐美未来創造部長	<p>大森委員、長時間にわたりまして円滑な議事の進行ありがとうございました。次に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。</p>
林政策推進係長	<p>事務局よりご連絡いたします。</p> <p>本日の会議録につきましては、作成でき次第委員の皆様へ送付させていただきます。内容確認の後、ホームページで公表となりますので、ご承知おきください。</p> <p>また、今回の議事につきまして改めて意見調書を書面でさせていただく予定となっております。つきましては本日会議終了後にメールにて意見調書を送付いたしますので、ご記入いただき、1月15日までにご返信をお願いします。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
阿佐美未来創造部長	<p>ただいまの説明に関しまして、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>以上を持ちまして、県都まえばし創生本部有識者会議・令和6年度第2回会議を終了といたします。</p> <p>本日は長時間にわたりましてご協議いただき誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>